

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2859 号

The Prognostic Value of B-Type Natriuretic Peptide in Patients With Cardiac Sarcoidosis Without Heart Failure: Insights From ILLUMINATE-CS

心不全を有さない心臓サルコイドーシスにおいて BNP は心イベントの有用な予測因子である

宮國 翔太 (みやくに しょうた)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、心不全を有さない心臓サルコイドーシス患者において脳性ナトリウム利尿ペプチド (BNP; Brain Natriuretic Peptide) 値がその後の心イベントの発生の予測に有用であることを明らかにした。

【新規性、創造性】 心臓サルコイドーシス患者は希少疾患ゆえに先行研究が極めて少なく、予後予測を検証した研究も過去にほとんどない。BNP 測定は心不全を有さない患者においても予後予測に有用であることに着目し、心臓サルコイドーシス患者においても診断時の BNP 値上昇と予後不良が関連していると仮定し解析を行った。

【方法・研究倫理】 診断時点で心不全が認められなかった心臓サルコイドーシス患者 238 例を BNP の中央値(101.3pg/mL)で高 BNP 群と低 BNP 群に分けた。主要評価項目は全死亡、致死性不整脈、心不全による入院の複合とし、Kaplan-Meier 曲線解析を用いて累積発生率を比較した。

【学術的意義】 世界最大規模の心臓サルコイドーシスのレジストリデータを用いて、心不全を有さない心臓サルコイドーシスの診断時 BNP は予後予測因子であることを示した (ハザード比 2.06、95%CI 1.19~3.55、P=0.010)。

【考察・今後の発展】 本研究により、たとえ心臓サルコイドーシスの診断時に心不全を有していなくとも、BNP を測定することで将来の心イベントを予測できる可能性が示唆された。今回の結果により、早期にリスクの高い患者を発見し、早期の治療に結び付けられることが期待される。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。